

組織的なアプローチⅢ

実践報告（２）施設における実践

社会福祉法人 雲柱社
ワークスタジオかがわ
生活支援員 伊藤大輔

雲柱社 ワークスタジオかがわ

所在地 東京都あきる野市引田6 5 9 - 1

開設日 2006年4月1日

事業内容 生活介護事業

活動内容

- ・おせんべいの製造・ポストカード・手芸品
- ・付録の袋詰めや部品入れなどの受注作業
- ・アルミ缶潰し、農作業
- ・ラジオ体操 ウォーキング

利用定員 20名（24名）



- ・ 障害程度区分

3 ⇒ 1 名 4 ⇒ 6 名 **5 ⇒ 6 名 6 ⇒ 1 1 名**

- ・ 性別

男性 ⇒ 2 1 名 女性 ⇒ 3 名

- ・ 年齢

20代 ⇒ 6 名 **30代 ⇒ 1 4 名** 40代 ⇒ 2 名 50代 ⇒ 1 名

⇒ 元気な若い男性利用者が大半

事例の概要

| 対象者のプロフィール | |
|------------|--------------------|
| 年齢 | 34歳 |
| 性別 | 男 |
| 診断 | 自閉症、てんかん |
| 愛の手帳 | 2度 |
| 障害程度区分 | 6 |
| ABC-J | 62点 |
| 強度行動障害判定表 | 17点 |
| その他 | |
| 行動面の問題 | 壁に蹴りや肘打ちをする、傷をいじる等 |

なぜこの行動を対象にしたか？

①施設、ご自宅共に壁蹴り、ひじ打ちにより近隣の住宅や店舗から苦情が入ることがあった。

②腫れる、骨折するなどご本人の怪我につながっている。

ご本人にとってどう困る？

- ① ご本人の社会生活が制限されてしまう。

例：ウォーキングのルート変更

好きな場所でご飯が食べられない

- ⇒②怪我をすることで、ご本人も苦しい
行動が制限される

例：痛み、好きな活動に参加できない

壁蹴り、肘打ちによる破損



壁に穴が空くほど強く叩くことも・・・
肘や脚を怪我されることもありました・・・

A B C分析

事前

A

いつ、だれが、
何をしている
時？

行動

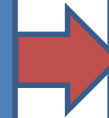
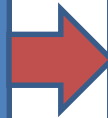
B

どんな行動が
あったか？

結果

C

どんな結果が得
られたか？



記録をつけて機能や傾向を探る

- ①どの時間帯に起こりやすいか予測できるようになる。
- ②それに伴って事前に準備しやすくなる。
- ③起きていない場面に潜む良い条件に気付く。
- ④行動の機能が推定できる。
- ⑤対応の成果がわかるようになる。

以上の利点を職員や関わるパートさんに説明し、協力を依頼。→多くの目や場面でご本人の行動に注目することで、正確な記録をとる。

チームで統一した支援を行うために意識したこと

- 毎日行う検討会議で必ず対象者の様子を報告するようにした。
- 統一した書式で記録をつけるようにした
- 記録の書式は職員の負担が少ないものにした。
- 行動の記録について迷いが出たときにはチームで話し合い統一した視点を持つようにした。

行動観察シート

行 動 観 察 シ ー ト

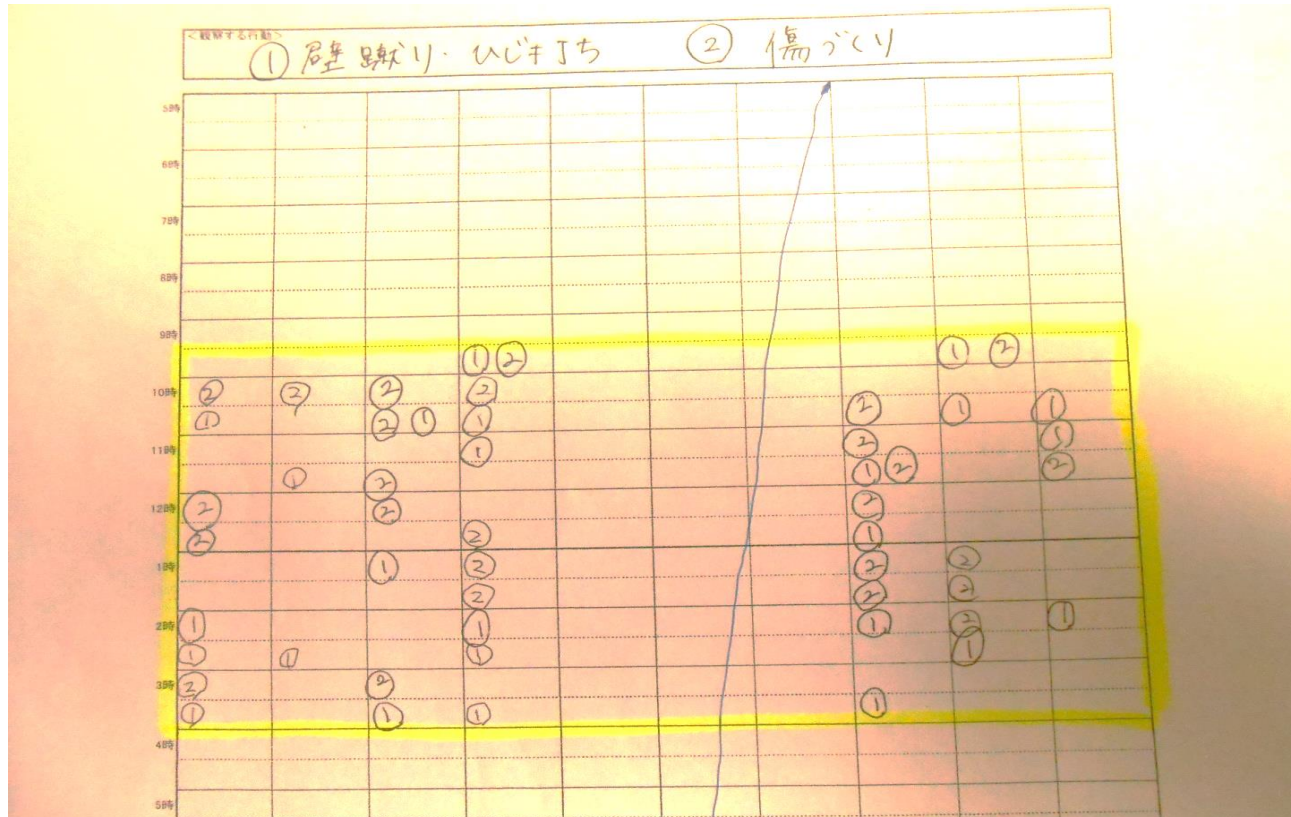
(0 月 2 日 (日)) No. _____

対象児名 _____ 観察者名 _____

| 時間 | 状況・きっかけ (いつ? 誰という時? 何をしている時? どこ にいる時?) | 行動 (具体的に) | どう対処したか | 行動はどうなったか |
|---------------|---|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 10/2 10:50 | 休けい時間 玄関前を歩いて いる時に (1人で) | 重り系の上にいた S本さんと内田に たじろぎをした | 呼び名するが 反応なし | そのまま重り系を 歩きつづけた |
| 10/2 10:52 | 休けい時間 食堂内を1人で 歩いている時に | フールにひび打ち をして大きな音を出す | そのまま2階へ 行ったため、特に 対応しませんでした | → // |
| 10/3 10:52 | 休けい時間 作業室1を1人で 歩いている時に | 左奥の壁を 蹴った | 呼び名すると職員員の 対応をツツと見る | おたあらない |
| 14:39 | // | // | そのまま廊下に出た ため、特に対応せず | // (壁を蹴ったり後に 使ったものを鳴らす一連の行動) |
| 14/4 14:45 | 休けい時間 歩いているとき | その他利用者の Sさん にひびきかける | 呼び名して、 止めることを促す | 減らした |
| 10/5 12:53 | 2F廊下 / カフェ 横に立っているとき | 椅子の脚をいじめる する (列挙して) | 起きて話をし てもらう | (ふん) |

行動の傾向を発見するために、まずは起きた時の状況を整理

スキヤッタープロット



ある程度傾向が見えたところで、起きた場合のみ
記録をつけるような方法に変更
⇒記録をつける職員の負担減

事前評価 (スキヤタープロット)

< 観察する行動 >

× … 壁蹴り、ひじ打ち ※ … 傷いじり

| | | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 9 時 | | | | | | | |
| | | | | × | | | × ※ |
| 10 時 | | | | ※ | ※ | ※ | × ※ |
| | × | × | × | × | × | × | × |
| 11 時 | | × | × | | | | × |
| | | × | × | | × | × | |
| 12 時 | | | | ※ | ※ | × | |
| | × | | ※ | ※ | × | | × |
| 13 時 | | | | × | | × | ※ |
| | | | | × | | | ※ |
| 14 時 | | | | | × | | × |
| | | ※ | × | | × | × | × |
| 15 時 | | × | | | ※ | ※ | |
| | | × | × | × | × | × | × |
| 16 時 | × | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 10月20日 | 10月24日 | 10月25日 | 10月26日 | 10月30日 | 10月31日 | 11月2日 |

事前評価

- 集めた記録による A B C 分析

事前

行動

結果

・休憩中、一人で施設内を歩いている時。

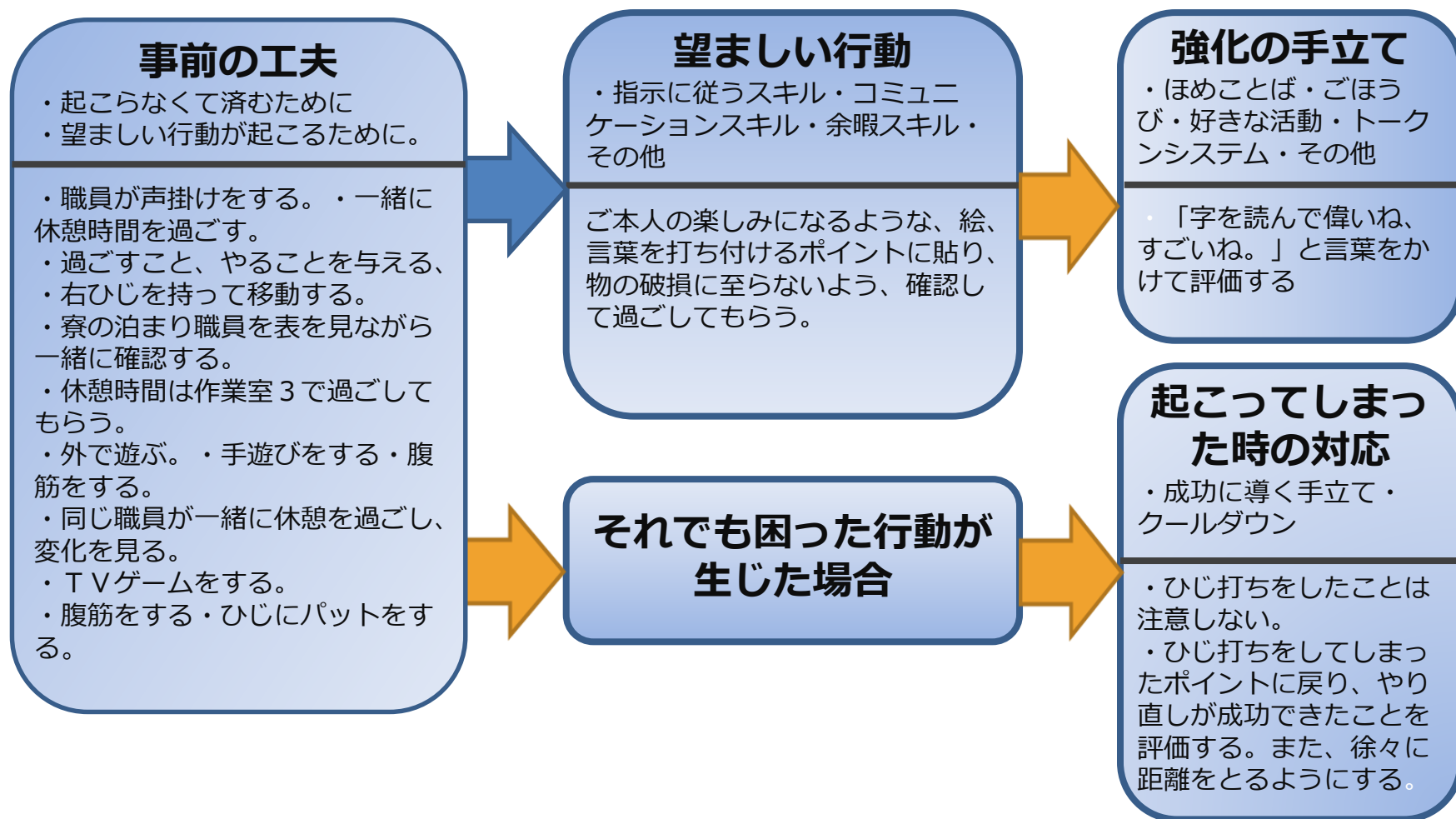
※職員と会話、遊んでいる時は行わない。

壁に蹴りやひじ打ちをする。

・打った後にくる衝撃を体で感じ楽しんでいる
(自動強化)

・人に注目してもらえる (注目)

ストラテジーシート



事前の対応と工夫

- 一緒に休憩時間を過ごす。
- 過ごすこと、やることを与える。

望ましい行動の教示

- ご本人の楽しみになるような、絵、言葉を壁蹴り、ひじ打ちする部分に貼り、物の破損に至らないよう、確認して過ごしてもらう。

画像で紹介



※集団生活の中では他の方の行動にも影響されることも

問題行動が生じてしまった時の手立て

- ひじ打ちをしたことを注意しないようにした。

⇒注目機能の強化を防ぐ

- ひじ打ちをしてしまった場所に戻ってもらい、職員が手本を示しやり直してもらう。やり直しができたことを言葉で褒める。また、徐々に距離をとるようにする。

⇒望ましい行動を強化する

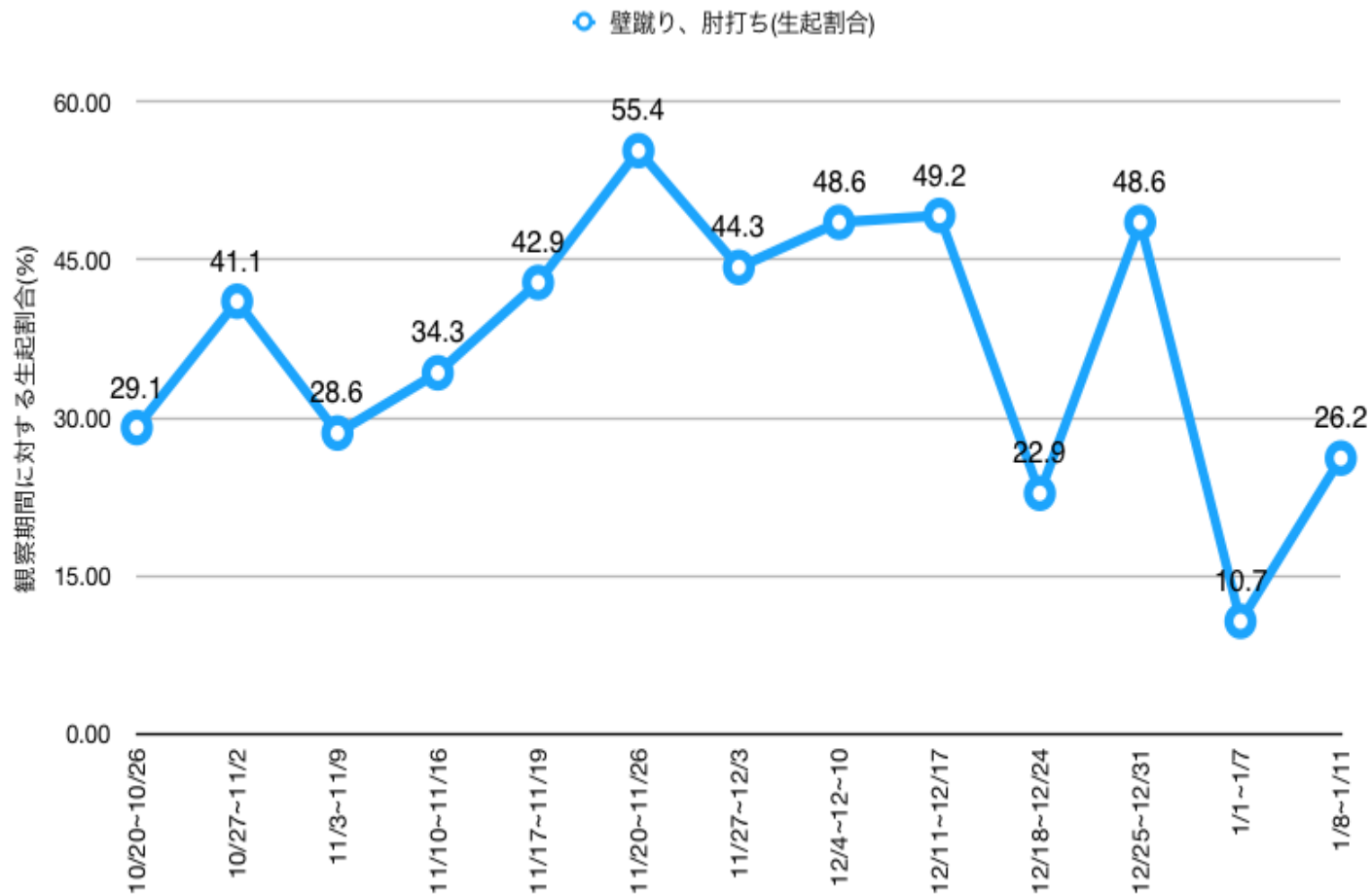
事後評価 (スキュータープロット)

< 観察する行動 >

× … 壁蹴り、ひじ打ち ※ … 傷いじり

| | | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 9 時 | | | | | | | |
| | | | | | | × | × |
| 10 時 | | | × | | × | ※ | |
| | × | × | | | × | | |
| 11 時 | | ※ | | | | × | |
| | | × | × | | | × | ※ |
| 12 時 | ※ | | | | × | | |
| | × | | | | | | |
| 13 時 | | | | ※ | | | |
| | × | | | | | | |
| 14 時 | | | | | | × | ※ |
| | | × | | | × | | × |
| 15 時 | | | | | × | × | × |
| | | | × | | × | | × |
| 16 時 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 12月19日 | 12月20日 | 12月21日 | 12月22日 | 12月25日 | 12月26日 | 12月27日 |
| | | | | | | | 12月28日 |

実施した結果



考察

- うまくいった点

①支援を試した結果、ご本人に行動をコントロールする力があることがわかった。

②ご本人が興味を持てるものであれば、壁蹴りやひじ打ちより意識がそちらに向くことがわかった。

考察

- 課題となった点

①支援が継続的でなくまだ結果として見えずらい点。

チームマネジメントについて

- 上手くいった点

①記録をつける意識が現場で芽生えた。

②他の方の問題行動に対しても応用してみたいとの意見も出て考え方が広まった。

③対象の方の問題行動について話す機会が増え、スタッフ間のコミュニケーションにも繋がった。

チームマネジメントについて

- 困難だった点

①全員で話すまでに、シフト等の関係上、時間がかかり支援を実行することが後手になってしまった。

②声の掛け方など対応の統一が困難だった。

ご清聴ありがとうございました